



女性神職の笑顔



修験者神輿

秋の例祭

ワッショイ、わっしょい

奈良県観光局観光プロモーション課等の職員も同行され、熱心にサポートされていた。にぎやかな取材となり、文化発信だけでなく、極めて有意義な交流の機会となりました。関係者の皆さま、誠にありがとうございました。

東京大学大学院・小林真理教授ゼミの皆さんたちが、アニメ「レッドデータガール」のモデル神社らしい玉置神社を訪ねて



台湾の有名な雑誌社が9月6日、取材にご来社。記者さんやカメラマンさんたちが境内を巡り、重要文化財の襖絵を重点的にチェックしておられた。

「文化・観光振興のお役に立てれば」

下さり、小説やアニメ等と観光資源との関係性などについて、探求されておられたことは、前号でお伝えしました。そして、台湾の雑誌社からのご来社。「訪日客 今年、2千万人超」―国土交通省発表のニュースが話題となりましたが、文化資源の宝庫の当神社が、文化・観光振興の側面で見えさかなりともお役に立てることがあれば・・・と、願っています。当神社がミシランの「一つ星」で紹介されていることも、前号で速報として掲載いたしましたとおりです。

十津川の小さな古社で今、何か、大きなうねりが胎動しつつある・・・と、皆さんがおっしゃるのも、うなずける気がいたすのですが・・・。

感謝、ただ感謝の日々です。



神代之風

熊野三山
奥之宮

発行：世界遺産 玉置神社
出雲大社玉置教会
発行人：弓場 季彦
奈良県吉野郡十津川村玉置川一番地
TEL 0746-64-0500
FAX 0746-64-0429
<http://www.tamaki.jinja.or.jp>

秋の例祭(2・3・4面)

宮司私感 (2面)

海外から玉置神社取材に来られました

台湾雑誌社の記者さんたち

奈良県観光局職員も同行

INTERNATIONAL TAMAKI

Swell
うねり

「今を失うな」「今を大事にせよ」

宮司私感

時の流れのすさまじいまでの速さ。それでもまた虹を見て、心の鐘を打ち鳴らしながら歩む自分をありがたく思う。短い期間にもいろいろございますね。

例祭は、10月24日。不変。今年は月曜日だった。されど参加者は昨年以上で、賑わう。

昨年は神輿を担いでいた高校生、大学生も登校等のため不参加であったが、修験者の初めての参加を得て、迫力ある神輿となりました。

修験者、そして神輿の周りにいらした皆さんの笑顔の額に浮かぶ汗の玉が、私には宝石のように見えました。「来年の例祭でもまた神輿を担がせて下さい」。修験者の皆さんの言葉に、胸がとても熱くなりました。

玉置神社は、観光資源、観光魅力に関連して、あのミシュランの「一つ星」で紹介されています。

いつご調査されたのか、誠にありがたいことです。台湾の有力な雑誌社が取材に來られました。

山上の小さな文化の都、がどのように映ったのでしょうか。関心を持っていたくのは、本当にうれしい限りですね。

夏から秋へ。楽しい日々でした。難題も降りかかりました。超多忙の中、時が経っていくにつれて、あの声、この声、が次第にうすれてゆく印象もあります。「今を失うな」「今を大事にせよ」、ということかな・・・。
迷い道。それでも前へ進もう！



「胸がとても熱くなりました」



初めての――修験者神輿



秋の例祭

昨年以上の参拝者

秋の例祭は、10月24日と不動である。今年は月曜日であったが、昨年以上の参拝者が山上にお登りくださった。

神輿(みこし)担ぎも、昨年のように高校生等は参加できず不在だが、修験者の皆さんが初めて加わって、迫力満点のワッショイワッショイでした。

前日23日の宵宮祭もかつてないほど参加者が多く、両日も天候に恵まれ、また全国から集まってくださったボランティアの皆さんの動きもスピーディーで軽やかでした。皆々さま、ありがとうございました。

迫力満点



Swell
うねり

INTERNATIONAL TAMAKI

花言葉

「あなたの悲しみに寄り添う」
「誠実」



アサマリンドウ



2040年には896の自治体が消滅の危機に直面するという説もある。そのような中で、その土地が持つ固有の絆や強さをフォーカスしていく企画がされた。

今回、玉置神社の秋季例祭に触れることで、その土地が持つ「強さ」を探ってみたい、と宵宮祭(10月23日)例祭(同24日)両日にわたり取材・撮影があった。

福岡俊弘教授による宮司へのインタビューもあった。いずれも手際よく進められていた。さて、デジタルハリウッドは、どのように見られたのかな。

デジタルハリウッド大学より取材



神職から…

神々も大変 お喜びになりました

23日の宵宮祭、24日の例祭は、両日とも天候に恵まれました。今年も多くの方々にご参拝いただいたことはもちろん、全国からボランティアの皆さまが馳せ参じ、準備から本番の御祭祀まで東奔西走のご活躍でご奉仕くださいました。

年々増加する参拝者の賑わいや、神輿担ぎの一行の迫力満点・活気溢れる光景に神々もお喜びになられたことでしょう。

ご参列の皆さま、ありがとうございました。

(玉置神社神職記)

10月下旬にしては気候も穏やかで暖かく、境内にて蕾(つぼみ)を膨らますアサマリンドウの花冠の明るく清らかな青色が映える頃でした。同月20日には注連縄(しめなわ)奉納祭・献湯祭、24日には例祭が執り行われました。

奉納された注連縄は、十津川村観光協会が中心となって製作され、県指定天然記念物に指定されている杉の巨樹群のうち神代杉・夫婦杉・大杉・磐余杉・常立杉へ、また本殿へと取り付けられました。

十津川村で湧き出る3つの源泉、温泉地温泉・上湯温泉・十津川温泉の御湯も同じく奉納され、温泉と云う神々の恵みに感謝し、ますますの振興を祈念いたしました。

玉置神社 注連縄奉納祭 献湯祭 秋の例祭



お気をつけてー



ボランティアから…

例祭ボランティア参加の折の感想

北海道 相川さおりさん

貴重な体験をさせて頂きました

例祭のお手伝いは、昨年に続き2度目でしたが、今年はカメラ撮影や設営などをさせて頂きました。

この山上という厳しい環境で営まれている玉置神社様の運営・管理のご苦労と、そこから生まれる知恵を垣間見させて頂き、見えない部分のご苦労に感謝の意が込み上がったと同時に、次に繋がっていく若い力によるお手伝いが必要なことを感じました。

弓場宮様のお言葉に「神様は人間が馳せ参じる気持ちに感応し御力を増す。それがお祭りという神事である」とありました。お言葉のように、例祭では、前日の寒々しさが嘘のように、皆さまが集まり出すにつれ、陽が差し込み、玉置の神様がお慶びになられているかの様でした。

この度も貴重な体験をさせて頂き、心より感謝申し上げます。

(北海道 相川さおり記)



左が相川さん、右は北海道のお友達
カメラを肩に



例祭

華麗に
明朗に

十津川村消防団

防災施設点検

十津川村消防団により定期的に実施してくださっている防災施設点検は、今年は11月4日。副団長尾中康男、佐古金二郎両氏をはじめ関係の皆さん総勢17名。手際の良い点検作業に、拝見していて安心感が一杯。皆さま、ありがとうございました。

総勢17名の皆さん
手際よい作業 安心を頂きました



ゆっくり走ろう十津川路

交通安全グッズ

交通安全協会五條支部協会
十津川分会女性部

心込めた手仕事
いつも有難うございます

玉置神社総代から…

胸のどこかに…

諸行無常 盛者必衰

11月3日、穏やかな秋晴れの下、奈良県大芸術祭に因んで開催された高畑街道祭り。玉置神社宮司に同行し、会場の1つである南都春日山「不空院」を訪れた。

当院は奈良公園の南に位置する閑静な佇まいにある。近くには新薬師寺があり、親しみやすい古都奈良の風情を残している。本尊を拝したあと薩摩琵琶奏者・関川鶴祐さんによる平家物語の弾き語りを拝聴した。

諸行無常、盛者必衰。平家物語の冒頭を貫く摂理は、高校時代の私には印象的。今思うと、以後、私の心のどこかで生きてきたような気がする。

胸底に響くばちの音、魂を揺さぶる張りのある声。暗がりの中、襖に揺らぐ琵琶法師の影、イリュージョン、パークカッションと相まって演出効果抜群だ。

余韻に浸りつつ門前の「ろくさろん」へ。一杯のコーヒーと心癒される生演奏。深まりゆく古都の秋を満喫する一日であった。

(玉置神社総代 野口明英記)

南都春日山「不空院」へ

関川鶴祐さん

平家物語
弾き語り

魂揺さぶられ

奈良県大芸術祭参加

奈良フィル第39回定期演奏会

県文化会館国際ホール



9月4日、奈良県文化会館国際ホールにて開催。拍手が多くて安心。

大原末子新団長。舞台ソデから全体の流れを指揮しているが如しスピーディーな動き垣間見える。

栗辻聡指揮者のアクションと

一生懸命な団員の皆さん
好感度抜群でした

表情。これは、かなり工夫されているのかな。歌舞伎のように決まっています。団員の皆さん、一生懸命ね。好感。爽やかなもの見せ聴かせていただきました。ありがとうございますね。



プログラムを手渡す

笑顔の大原末子新団長



「拍手が多くて安心しましたよ」



事務局長補佐から…

出雲大社

神迎祭

夜 空に月輝く中

かがり火煌々と

神在祭

冥 界司る出雲らしさ

漂う幽玄の美



11月9日午後7時より島根・稲佐の浜で神迎神事(かみむかえしんじ)が執り行われました。

寒い冬空の下、かがり火が煌々(こうこう)と燃え、白波が一直線に迫って来ます。山鹿の甲高い鳴き声が遠くこだまし、神迎の儀式の始まりとなりました。

時折、月が垣間見える中、御幣片手に白幕の後ろを厳かな気分で連なり、無事神事を終えました。

翌10日、出雲大社内にて神在祭(かみありさい)が執り行われました。

神職以下、参列者全員で祝詞を奏上。祝詞には「顕世を去りぬる後の魂も永久に治め給い恵み給い。幽冥の制の任に神の列に入らしめ給い」、とあり、冥界を司る出雲らしさを感じます。

その後の巫女の舞もシンプルなだけに、幽玄の美を見た様でした。

(玉置神社事務局長補佐
鶴田真弓記)



— 神々をお迎え —

御神火焚かれ



事務局長補佐から…



思いやることの大切さ

公の心で務める意味

周囲の恩を感じ
お返しする

ダライ・ラマ法王講演

(東本願寺東山浄苑)

京都・東本願寺東山浄苑にて11月9日、ダライ・ラマ法王十四世の講演があり、拝聴してまいりました。

子どもたちの可愛らしい歌声に迎えられて、にこやかに登場したダライ・ラマ法王。現代教育が物質的な教育に偏っており、精神面に目を向けられていないことに言及しつつ、思いやりの心の大切さを説かれました。

和を以て尊しと為す、とありますが、公の心で務めることで組織も個人も高められることや、周囲の恩を感じてそれを周りに返していくことで、幸せな社会が築かれるなど、心の使い方について教えていただいた貴重な機会となりました。

(玉置神社事務局長補佐
鶴田真弓記)

価値を
見定めていただける方々重要文化財の襖絵も
丁寧におもてなし

國學院大学卒業の神職がご奉仕中ということもあり、神道学博士・小野善一郎ご一行様が10月6日、昨年に続き11名で正式参拝された。この後、宮司と歓談。重要文化財の襖絵をご案内すると、ご一行驚嘆。素晴らしさへの驚嘆か、無防備とも見える至近距離での鑑賞の驚嘆か。価値を見定めていただける方々を、襖絵も、丁寧におもてなししていただこうです。

國學院大学専任講師
小野善一郎ご一行様
正式参拝

INTERNATIONAL TAMAKI

愛と平和・水と命の歌と舞奉納

神秘的に そして 優しく

シングソングライターの蜂谷清香さんはウクレレつまびきながら歌を、ハワイのカウアイ島在住ダンサーの野口香奈子さんは踊りを共演で3曲奉納。

歌も踊りも重厚にして神秘的。森の深奥で演じられているようだ。森や大地のエネルギーが一杯。ボブ・ディランの作詞の妙。イザベル・ダンカンの舞を優しく優しく。参拝者も思わず集まってきて、魅せられていた。寒い日(10月14日)でしたが、熱かったね。

蜂谷清香さん
野口香奈子さん



ボブ・ディラン

作詞の妙

イザベル・ダンカン

品高き舞



奈良シニア大学で講演

きらっ都奈良ビル

弓場宮司 **夢** を語る

安らぎと文化の薫りがする山上の都



55歳以上のシニアを対象にしたシニア大学は、より豊かな人生を求めている方々に、様々なカリキュラムを提供している。10月27日、「きらっ都奈良ビル3階ホール」において講演させていただく機会を得た。テーマは「安らぎと文化の薫りがする山上の都を夢見て〜世界遺産・玉置神社〜」。十津川の歴史等にも触れながら、このテーマの意図するところを実務体験を折り込みご紹介。ありがたい機会をいただき、関係者の皆さま、受講者の皆さま、心から感謝。



受講者の皆様

心より感謝

1月1日 歳旦祭 1月3日 元始祭
1月28日 明治祭 2月3日 節分祭